

V38b FMOS (すばる望遠鏡主焦点多天体分光器) の開発 IX : PIR の初期成果
木村 仁彦、舞原俊憲、太田耕司、岩室史英、坂井道成 (京大理)、衛藤茂、持田大作 (ニコ
ン)、秋山正幸、能丸淳一 (国立天文台)、田村直之 (ダーラム大学)、他すばる望遠鏡

すばる望遠鏡の第2期共同利用観測装置であるFMOS (Fibre Multi-Object Spectrograph) は、近赤外線領域 (z, J, H バンド) を400天体同時分光観測することができる観測装置であり、(1) 主焦点部に取り付けられる主焦点ユニット、(2) 天体の光を受け分光器へ導くファイバー、及び(3) 赤外側ナスマス階の上階のTUE階に置かれる近赤外線分光器2台から構成される。このFMOSは、京都大学、AAO (Australia)、イギリスの国際協力の下に現在開発が進められている。京都大学では、主焦点ユニット (PIR と呼ぶ) と一台の分光器を作成し、現在すばる望遠鏡に輸送され、組立調整中にある。本公演では、本年7月に行われたPIRの機械的・光学的なファーストライトの初期結果を中心にFMOSの現状を報告する。